簡 単 操 作 ガ イ ド

お出かけになる前に知っておきたい基礎知識
～PowerShot G6 編

対象機種　：　PowerShot G6

概　要

本書では、デジタルカメラにおけるバッテリー使用時の撮影可能枚数、CF カードへの記録可能枚数、撮影する際のワンポイントアドバイスをご案内します。
お出かけになる前の確認事項としてご参考ください。
本書内でご案内している価格につきましては、2004 年 11 月現在のものです。

目　次

（全 10 ページ）

■ 電池性能について

PowerShot G6 で使用可能な電池は、専用充電式リチウムイオン電池(バッテリー)です。
本章では、専用充電式リチウムイオン電池使用時における撮影可能枚数の目安をご案内します。(動画データは除く) 枚数を多く撮影されるような場合は、予備バッテリーの購入をご検討ください。

● 撮影可能枚数

	撮影画像数		再生時間
	液晶モニターON (CIPA 測定法準拠)	液晶モニターOFF	
充電式リチウムイオン電池 (バッテリーパック BP-511A)	約 300 画像	約 900 画像	約 400 分

- 上記データは当社測定条件によるもので、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリーアイコンが早目に表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞
撮影： 常温(23±2℃)・常湿(50±20%)で、2 回に 1 回ストロボを発光させながら、
30 秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10 画像撮影後に電源切。
十分な時間(*)が経過した後、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。
付属のメモリーカードを使用
(*)電池の温度が常温に戻るまでの時間
再生： 常温(23±2℃)・常湿(50±20%)の環境において、1 画像あたり 3 秒間隔で
連続再生。

● オプションバッテリー

商品名	標準価格(税別)	同梱品
充電式リチウムイオン電池 バッテリーパック BP-511A	¥8,000	
バッテリーチャージャー CG-580	¥8,000	

※バッテリーパック BP-511A、バッテリーチャージャー CG-580 は、カメラ本体に同梱しております。
※PowerShot G6 では、バッテリーパック BP-514(¥8,000 税別)、BP-511(¥6,200 税別)の使用も可能です。

■ CF カードへの記録可能枚数について

本章では、CF カードへの記録可能枚数の目安をご案内します。
枚数を多く撮影されるような場合は、オプションでご用意しております CF カードをお求めください。
カメラ本体に同梱している CF カードは、32MB です。

● CF カードへの記録可能枚数

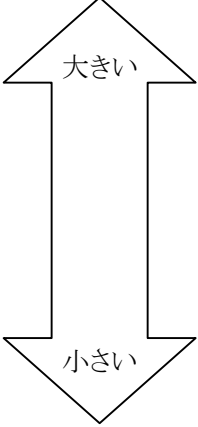
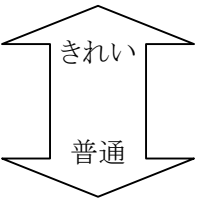
□ 付属のカード

記録画素数	圧縮率	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB
L(ラージ) 3072×2304 画素	スーパーファイン	9	19	40	81	163
	ファイン	15	32	64	130	261
	ノーマル	33	67	136	273	547
M1(ミドル 1) 2592×1944 画素	スーパーファイン	11	24	49	99	198
	ファイン	21	43	88	177	354
	ノーマル	43	88	176	355	709
M2(ミドル 2) 2048×1536 画素	スーパーファイン	18	38	76	154	308
	ファイン	33	68	137	276	522
	ノーマル	67	136	274	548	1096
M3(ミドル 3) 1600×1200 画素	スーパーファイン	30	61	122	246	491
	ファイン	54	109	219	440	879
	ノーマル	107	217	435	868	1736
S(スモール) 640×480 画素	スーパーファイン	119	241	482	962	1893
	ファイン	195	393	788	1563	3125
	ノーマル	336	676	1355	2720	5209
RAW 3072×2304 画素		3	7	16	33	68
動画	640×480 画素	45 秒	92 秒	186 秒	374 秒	743 秒
	320×240 画素	91 秒	183 秒	368 秒	735 秒	1453 秒
	160×120 画素	241 秒	486 秒	973 秒	1954 秒	3906 秒

※ RAW とは、画像の劣化がなく画像データを完全復元できる保存形式です。(カメラに同梱の専用ソフトによる現像処理が必要です。)
※ 動画の 1 回の撮影時間は、[640X480]:約 30 秒、[320X240]:約 3 分、[160X120]:約 3 分です。
表中の数値は、繰り返し撮影した場合の記録可能時間です。
※ 本頁でご案内している記録画像数は、当社で設定した標準撮影条件よるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。

● オプション CF カード

商品名	標準価格
コンパクトフラッシュカード FC- 64M(64MB)	オープン価格
コンパクトフラッシュカード FC-128M(128MB)	
コンパクトフラッシュカード FC-256MH(256MB)	
コンパクトフラッシュカード FC-512MSH(512MB)	

● 記録画素数と圧縮率について

デジタルカメラの画質は、記録画素数と圧縮率の組み合わせにより決まります。
撮影する目的に応じて、記録画素数と圧縮率を選択してください。
大きくプリントする場合は、大きな画素数（L：ラージ）で撮影し、電子メールで送ったり、より多くの画像を撮影したいときなどは、小さい画素数（S：スモール）で撮影することをお勧めします。
記録画素数は、S（スモール）→M3（ミドル 3）→M2（ミドル 2）→M1（ミドル 1）→L（ラージ）の順に大きくなります。
画質は、ノーマル→ファイン→スーパーファインの順に高画質になります。

記録画素数		撮影の目安
L（ラージ） 3072×2304 画素	大きい ↑	・A4 サイズ以上にプリントするとき
M1（ミドル 1） 2592×1944 画素		
M2（ミドル 2） 2048×1536 画素		・A4 サイズまでをプリントするとき
M3（ミドル 3） 1600×1200 画素		・L サイズ、または A5 サイズにプリントするとき
S（スモール） 640×480 画素	↓ 小さい	・電子メールで画像を送るとき ・より多くの画像を撮影するとき

圧縮率		撮影の目安
スーパーファイン	きれい ↑	より良い画質で撮影するとき
ファイン		通常の撮影をするとき
ノーマル	↓ 普通	より多くの画像を撮影するとき

CF カードに記録可能な撮影枚数は、前頁でご紹介したとおり、記録画素数と圧縮率の組み合わせより異なります。
異なる記録画素数で、同程度の枚数が撮影可能な圧縮率がある場合には、記録画素数を優先することも選択肢のひとつです。
例えば、PowerShot G6 で 32MB の CF カードを使用した場合、
「M1（2592×1944 画素）／ファイン）では約 21 枚、「M2（2048×1536 画素）／スーパーファイン」では約 18 枚と、ほぼ同等の枚数が撮影できます。（前頁参照）
この様な場合には、記録画素数を優先し、「M1（2592×1944 画素）／ファイン」を選択してみましょう！

Canon

■ 撮影する際のワンポイントアドバイス

思いどおりの写真を撮影するために、まずはデジタルカメラの基本的な撮影方法を会得しましょう。
ちょっとしたコツをおさえることで、お気に入りの写真が増えるはず！

● ピントを合わせて「日の丸」写真から抜け出す

PowerShot G6 では、自動的にピントを合わせる方式を採用しています。
この方式を AF（オートフォーカス）と呼び、AF によってピンボケ写真は、ほとんどなくなります。
しかし、被写体にピントが合うと、そのままシャッターをきってしまうことがあります。
ちょっと被写体を右か左に寄せれば、奥行きが出たり、もっと面白くなったという作品も少なくありません。
こうした真ん中にピントのあった写真は「日の丸」写真などと言われ、構図としてつまらなくなりがちです。
そこで、おきまりの構図から抜け出して、自由に構図を決められるようになるために覚えたいのが「シャッター半押し（フォーカスロック）」です。

カメラのシャッターボタンは、
1. ピントを合わせなさい
2. シャッターを切りなさい

という二つの命令をカメラに伝えています。

この「1.」の段階を「シャッター半押し」といい、この状態で狙った部分にピントが固定されます。
従って、シャッターを半押しの状態であれば、AF フレームを他の部分に合わせてもピントは動きません。
つまり、シャッターボタンを指から離さない限り、構図を自由に変えることが出来ます。
ピントが固定された状態ですので、このことをフォーカスロックといいます。

1 ピントを合わせる
写したいもの（被写体）を液晶モニターの中央に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
シャッター半押しした時点でピントの合った AF 枠が緑に点灯します。

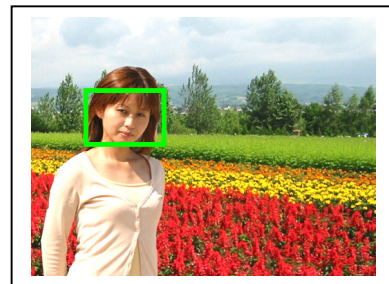
2 構図を変える
シャッターボタンを半押ししたまま構図を変えます。

3 撮影する
シャッターボタンを押して、撮影します。あまり力を入れると手ブレが起きますので、ソフトに指先の腹全体でシャッターボタンを押すのがコツです。

※ 9 点測距は、AUTO およびイメージゾーンで選択できます。
※ 液晶モニターがオンのとき、ピントの合った AF 枠が緑に点灯します。
※ AF フレームの白枠は実際には表示されません。

Canon

前頁でフォーカスロックについてご案内しましたが、PowerShot G6 では、AF 枠の位置を任意に設定可能なアクティブコントロールを搭載しています。液晶モニター上に表示された AF 測距枠をカメラ本体の十字ボタンを使って、上下・左右に移動させるだけで確実にピント合わせが行えます。
フレーミングを変えることなく目的の被写体をとらえられるため、自由な構図が可能になりました。
PowerShot G6 では、カメラマンの撮影意図を反映させやすい高度な機能を搭載しているのです！

※ P/Av/Tv/M モードでは、中央 1 点もしくはマニュアル選択となります。
※ 液晶モニターがオンのとき、ピントの合った AF 枠が緑に点灯します。
※ AF フレームの白枠は実際には表示されません。
※ デジタルズームをお使いのときは、AF 枠を任意の位置に移動しても中央 1 点に固定されます。

● 手ブレを起こさないコツ

構図や被写体が美しくても手ブレを起こした写真では、映像が流れたようになり、だいなしになってしまいます。
手ブレは、シャッターをきる瞬間にカメラが微妙に動いた状態です。
デジタルカメラの性能が進歩し、撮影がほぼフルオート化され、露出やピントの心配がなくなった現在、最も多い撮影ミスが、この手ブレによるものと言われています。

手ブレを防ぐには、何よりもカメラをしっかりと安定して構えることです。特に重要なことは、脇を締めてカメラを持つことと、肩には力を入れずに、シャッターは指先の腹全体で押す感じで、きることです。
また、シャッターをきった後、すぐにシャッターボタンを離さず、半押し状態に戻す感じのほうがブレにくくなります。

実際、日中の光が十分にある場所での撮影は、シャッター速度が速くなるので、ほとんど手ブレが起きることはありませんが、室内や夜間での撮影では、光量が少なくなり手ブレが起きやすくなります。
この様な状況では、両手でカメラをしっかりと構える、あるいは三脚などを使用してください。

● 人物をきれいに撮りたい

順光（光が被写体の正面から照らしている状態）での撮影では、光が被写体に対して、まんべんなく当たるので、露出は過不足なく適度になります。しかし、凹凸にも一様に光が当たるために陰影がつきにくく、表面の質感や物の立体感が乏しくなります。

一方、逆光（光が被写体の背後から照らす状態）での撮影では、表情が日差しのまぶしさにゆがむこともなく、きれいな写真が撮れるというメリットがあり、人物撮影の場合、逆光の方がきれいに撮れることがあります。
しかしながら、逆光での撮影は、被写体自体が暗く写ってしまいます。被写体を明るく写すためには、フラッシュを強制発光させて、被写体の前からも光を当てる、露出のプラス補正を行なうなどの工夫が必要です。
なお、被写体に近づきすぎると、フラッシュで顔にテカリが出てしまいますので、適度な距離を保つようにしてください。また、太陽の光をフレーム内に入れると、大幅な露出不足となります。カメラの液晶モニターでフレーム内に日差しが入らないような構図にしてください。

次に、斜光（被写体に対して斜め上から光が照らす状態）での撮影では、表面の凸凹に対して陰影がハッキリつくため、質感再現に優れています。縁取りがはっきりし、立体感をよく描写することができます。

一般に被写体に対して最もバランスが良い光の角度は、斜め上方 45 度前後とされています。太陽光ならば、午前 10 時頃と、午後 2 時頃の位置がこの角度にあたります。
このように、美しい写真を撮るためには、太陽の光や天候などのさまざま要素を味方にできるように計算、工夫が必要なのです。

● 撮影モードを活用する

PowerShot G6 では、多彩な撮影機能をワンタッチで切り替えられるモードダイヤルを装備しています。
本格的なマニュアル撮影や、被写体、撮影意図に合わせてあらゆるシーンを撮りわけられます。

［風景］

［夜景］

■ オート		
AUTO	オート	カメラまかせの撮影ができます。
■ イメージゾーン（被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影する！）		
	ポートレート	背景をぼかして、人物を浮き立たせたイメージで撮影できます。
	風景	広がりのある風景を撮影するときに使います。
	夜景	夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影するときに使います。 人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度で、 それぞれをきれいに撮影することができます。
	ステッチアシスト	撮影した画像をパソコンで合成し、パノラマ画像を作るときに 使います。
	動画	動画を撮影するときに使います。
■ クリエイティブゾーン（本格的なマニュアル撮影を楽しむ！）		
P	プログラム AE	被写体の明るさに応じて、カメラのシャッター速度と絞り数値を 自動設定します。
Tv	シャッター速度優先 AE	シャッター速度を設定して動きを止めたり、動きを表現したいときに 使います。シャッター速度を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメ ラが適正露出になる絞り数値を自動設定します。
Av	絞り優先 AE	絞りを設定して、背景をぼかしたり、奥行きを表現したいときに使い ます。絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正 露出になるシャッター速度を自動的に設定します。
M	マニュアル露出	シャッター速度や絞り数値を自分で決定し、撮影ができます。
C1 **C2**	カスタム	よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を登録できます。 必要なとき、撮影モードダイヤルをに合せるだけで、事前に登録し た設定内容で撮影できます。

※ 各撮影モードで設定できる機能など、詳細につきましては、カメラに同梱の取扱説明書をご参照ください。

● ワンランク上の撮影を楽しめるアクセサリー

PowerShot G6 では、デジタルカメラをとことん楽しむ豊富なアクセサリーをご用意しております。

外観	商品概要
	テレコンバーター TC-DC58N ¥13,000（税別） より高倍率での撮影が可能となります。 離れた場所の被写体を撮りたいときに役立ちます。 運動会でわが子を撮るときなどに役立ちます。 焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の約 1.75 倍になります。
	ワイドコンバーター WC-DC58N ¥18,000（税別） 広角撮影を行いたいときに使用するアクセサリーです。 室内の集合写真や風景の臨場感を巧みに演出できます。 焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の約 0.7 倍になります。
	クローズアップレンズ 250D 58mm ¥8,500（税別） テレ端でレンズ先端から 10cm までの近接撮影（最大撮影範囲約 37×28mm）が可能。 被写体にぐっと近づいて拡大撮影できるため、花や昆虫などの撮影に有効です。
	コンバージョンレンズアダプター LA-DC58D ¥4,000（税別） 「テレコンバーター TC-DC58N」、「ワイドコンバーター WC-DC58N」、「クローズアップレンズ 250D 58mm」を取り付けるときは、必ず「コンバージョンレンズアダプター LA-DC58D」が必要となります。
	レンズフード LAH-DC30 ¥4,500（税別） ストロボを使わずに広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外の光がレンズに入らないように、レンズフードを取り付けることをお勧めします。 レンズフード装着時は、他の光学アクセサリー（別売）を同時に取り付けられません。

※ ストロボを使用すると、画像が欠け（ケラレ）て、画像の一部が暗くなります。
※ テレコンバーター、もしくはワイドコンバーターを取り付けて、外付けストロボを使用した場合、正しく自動調光されないことがあります。
※ テレコンバーター、もしくはワイドコンバーターにフィルターやレンズフードは取り付けられません。

※ ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。
※ テレコンバーターはテレ端の位置でお使いください。
それ以外の位置でお使いになると、画像がケラレることがあります。
※ ワイドコンバーターはワイド端の位置でお使いください。

▼ テレコンバーター TC-DC58N 装着時

▼ ワイドコンバーター WC-DC58N 装着時

以上で、撮影のワンポイントアドバイスは終了です。
デジタルカメラを連れて、思い出の写真を撮りに出かけましょう！

Canon

■ 付録

製品仕様、オプション品など、デジタルカメラに関する情報は、キヤノン／キヤノンマーケティングジャパンホームページで詳しくご案内しておりますので、是非お立ち寄りください。

▼ デジタルカメラホームページ

▼ デジタルカメラ製品情報

▼ デジタルカメラアクセサリー

▼ デジタルカメラ Q&A集

▼ デジタルカメラ PDFガイド

簡単操作ガイド

お出かけになる前に知っておきたい基礎知識 ～PowerShot G6 編

履歴 ： 2004 年 11 月 初版
制作 ： キヤノンカスタマーサポート株式会社
著作 ： キヤノンマーケティングジャパン株式会社
TEL 050-555-90002